

令和4年産雑豆の収穫量と 令和5年産雑豆の作付指標面積 について

(公財)日本豆類協会

1. 令和4年産雑豆の収穫量

農林水産省大臣官房統計情報部では、令和5年2月28日付けで「令和4年産小豆、いんげん及びらっかせい（乾燥子実）の収穫量」について公表した。ここでは雑豆に関する部分を抜粋して、下記のとおり紹介する。

(1) 小豆（乾燥子実）

①作付面積

全国の作付面積は2万3,200haで、前年産並みとなった。

②10a当たり収量

全国の10a当たり収量は181kgで、前年産並みとなった。なお、10a当たり平均収量対比は、89%となった。

③収穫量

全国の収穫量は4万2,100tで、前年産並みとなった。なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の93%を占めている。

(2) いんげん（乾燥子実）

①作付面積

全国の作付面積は6,220haで、前年産に比べ910ha（13%）減少した。これは、主産地である北海道において、他作物への転換等があったためである。

②10a当たり収量

全国の10a当たり収量は137kgで、前年産を36%上回った。これは、主産地である北海道において、8月の多雨・日照不足の影響により、小粒傾向となったものの、作柄の悪かった前年産の10a当たり収量を上回ったためである。なお、10a当たり平均収量対比は、94%となった。

③収穫量

全国の収穫量は8,530tで、前年産に比べ1,330t（18%）増加した。なお、都道府県別の収穫量割合は、北海道が全国の95%を占めている。

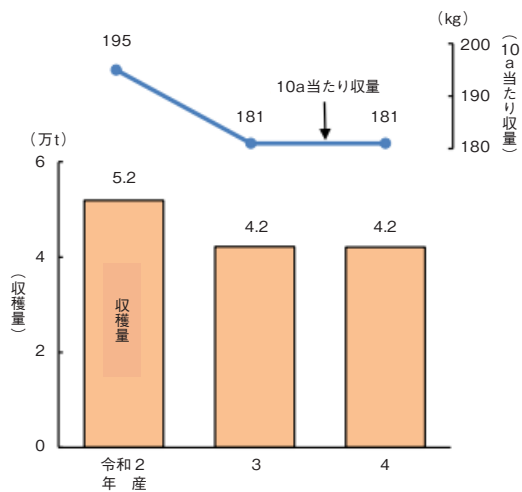


図1 小豆の10a当たり収量及び収穫量の推移

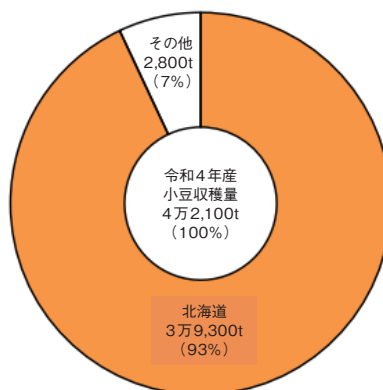


図2 令和4年産小豆の都道府県別収穫量及び割合

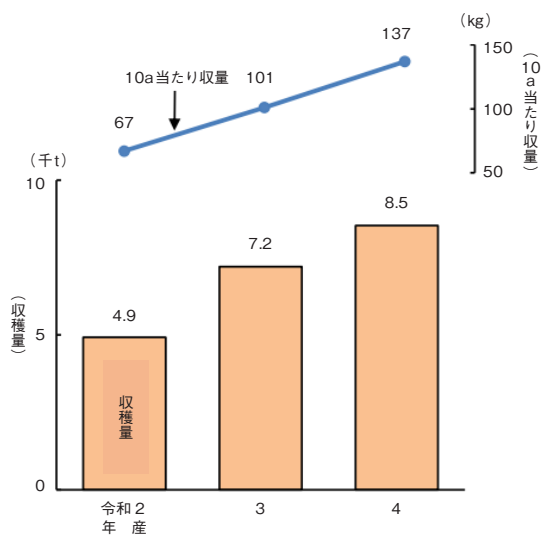


図3 いんげんの10a当たり収量及び収穫量の推移

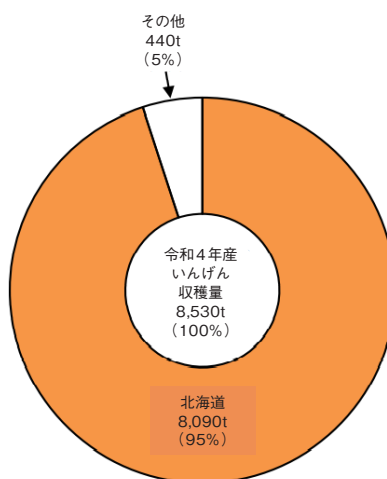


図4 令和4年産いんげんの都道府県別収穫量及び割合

表1 令和4年産小豆(乾燥子実)の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	作付面積 (ha)	10a 当たり 収量 (kg)	収穫量 (t)	前年産との比較					参考	
				作付面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a 当たり 平均 収量 対比 (%)	10a 当たり 平均 収量 (kg)
				対差 (ha)	対比 (%)	対比 (%)	対差 (t)	対比 (%)		
全国	23,200	181	42,100	△100	100	100	△100	100	89	204
うち北海道	19,100	206	39,300	100	101	100	200	101	88	234
滋賀	164	97	159	△25	87	90	△45	78	123	79
京都	458	72	330	0	100	91	△32	91	122	59

表2 令和4年産いんげん(乾燥子実)の作付面積、
10a当たり収量及び収穫量(北海道：種類別)

区分	作付面積 (ha)	10a 当たり 収量 (kg)	収穫量 (t)	前年産との比較					参考	
				作付面積		10a 当たり 収量	収穫量		10a 当たり 平均 収量 対比 (%)	10a 当たり 平均 収量 (kg)
				対差 (ha)	対比 (%)	対比 (%)	対差 (t)	対比 (%)		
全国	6,220	137	8,530	△910	87	136	1,330	118	94	146
うち北海道	5,780	140	8,090	△880	87	136	1,230	118	93	151
うち金時	4,160	121	5,030	△670	86	159	1,360	137	89	136
手亡	1,320	195	2,570	△180	88	101	△330	89	92	213

注：「金時」、「手亡」とはいんげんの種類を示す。なお、「きたロソソ」を含んでいない。

表3 小豆及びいんげんの作付面積、10a当たり収量及び収穫量の推移

区分	小豆			いんげん		
	作付面積 (ha)	10a当たり 収量(kg)	収穫量 (t)	作付面積 (ha)	10a当たり 収量(kg)	収穫量 (t)
平成25年産	32,300	211	68,000	9,120	168	15,300
26	32,000	240	76,800	9,260	221	20,500
27	27,300	233	63,700	10,200	250	25,500
28	21,300	138	29,500	8,560	66	5,650
29	22,700	235	53,400	7,150	236	16,900
30	23,700	178	42,100	7,350	133	9,760
令和元	25,500	232	59,100	6,860	195	13,400
2	26,600	195	51,900	7,370	67	4,920
3	23,300	181	42,200	7,130	101	7,200
4(概数)	23,200	181	42,100	6,220	137	8,530

2. 令和5年産雑豆の作付指標面積（北海道）

（1）小豆

小豆については、過去から供給量不足によって海外産に需要を奪われてきた経過にあることから、現在の需要拡大の流れを維持しつつ北海道産小豆の安定供給に向けて作付け面積を確保し、北海道産小豆を使用する実需に供給不安を与えないことが最も重要である。

このことから、今後の確実な小豆需要の確保に向けて、令和2年産小豆の作付け水準である22,100haの確保に向け、令和5年産小豆の作付け拡大を図らなければならない。

こうした状況を踏まえて、JA北海道中央会等により令和5年産の作付指標面積は昨年と同様に22,100haと定められた。

（2）いんげん等（菜豆等）

金時をはじめとした菜豆類については、労働負担の大きさなどから例年作付けが減少しているが、和菓子や煮豆など日本の食文化を支える重要な品目であることから、引き続き安定供給の確保が必要である。

このことから、北海道産いんげん等（金時、手亡、えん豆等）の令和5年産の作付指標面積は、昨年とほぼ同水準の7,206haとされた。

表4 令和5年産雑豆の作付指標面積（北海道）単位：ha

区分		4年産 実績面積	5年産 作付指標	備考
雑豆	小豆	19,116	22,100	
	菜豆等	6,036	7,206	えん豆等を含む

* 4年産実績面積は、統計情報換算値